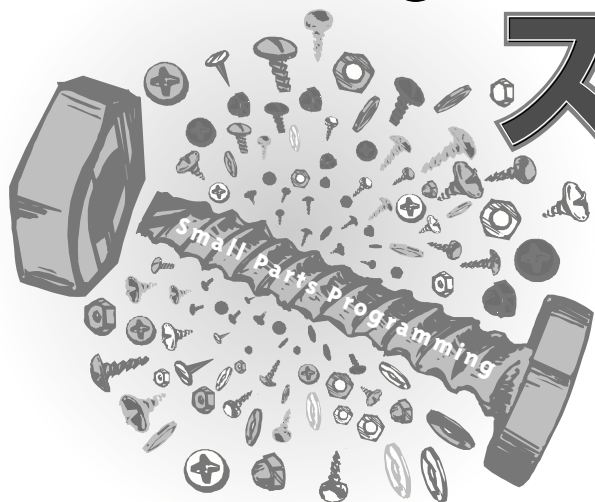


新連載

コンポーネント活用講座
～教養課程～

VB.NET

スモールパーツ プログラミング



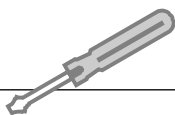
第 1 回

小森 大輔 KOMORI, Daisuke

Labelコントロール

Small Parts Programming

はじめに



みなさんはもうVisual Basic.NET (以下VB.NET) で“ガシガシ”とプログラムを作っていますか？

このような問いに対して、大半のVisual Basicプログラマの方が「No」という答えなのではないでしょうか？

理由はそれぞれあると思います。「.NETなんて今は必要ない。Visual Basic 6.0で十分事足りている」ですとか、「納期に追いまくられた仕事のほうが優先。そんなのや

ってる暇はない」なんておっしゃる方、さらには「何だコリヤ？ Visual Basicじゃないじゃん。やめやめ！」なんて入り口で放り投げてしまっている方もいらっしゃるかもしれません。

本連載では、そんな.NETへの移行に躊躇しているみなさんに代わって、VB.NETの基本でありますWindows Formアプリケーションの、とくに“コントロール”というものにスポットを当て、その機能や使い方を「基本的な部分から少し突っ込んだ部分まで」紹介してゆこうと思います。筆者の性質上、かなりの脱線も予想されますが、広い心で末永くお付き合いいただければ幸いです。

まず初回であります今回は、基本中の基本ということでLabelコントロールにスポットを当ててお話しいたします。

本稿で前提となるもの

OS Windows XP

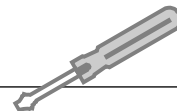
開発環境 Visual Basic.NET

初級 中級 上級

この記事で解説したサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DMAG¥SMALLフォルダ以下に収録しています

- ¥LABEL1¥ : Labelコントロールの位置とサイズの設定
- ¥LABEL2¥ : PreferredWidth、PreferredHeightプロパティを使用したサイズの設定
- ¥LABEL3¥ : Labelコントロールをコンテナコントロールとするデモ
- ¥FONTFAMILYDEMO¥ : 使用可能なFontFamilyオブジェクトの出力例

Labelコントロール

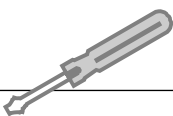


Labelとは、言わずと知れた「ユーザーが直接編集のできない文字列を表示するコントロール」です。プログラミング初心者の読者のためにもう少し付け加えると、あるイベントに呼応してフォーム上に簡単なメッセージを表示したり、他のコントロールが何を表わすものなのかという用途を明確にするために使用されます。たとえばLabelコントロールを利用してテキストボックスの横

に「氏名：」などと表示を行なって「このコントロールは氏名を入力するためのものなんだな」とわかるようにしたりするわけです。

Labelコントロールの主なプロパティを表1に示します。これ以外にも、コントロールの基本クラスであるControlクラスから継承された数多くのプロパティをもっています。

実行時のコントロールの配置とサイズの変更



Labelコントロールに限った話ではありませんが、VB.NETではデザイン時に配置したコントロールの位置やサイズを実行時に変更する方法が従来のバージョンから拡張されており、いろいろなやり方ができるようになっています。

実行時にコントロールの位置を変更する方法

- ・従来と同じように、Top、Leftそれぞれのプロパティへコントロールの上端、左端の座標を設定する
- ・コンテナ座標の相対座標としてコントロールの左上隅

の座標を設定するLocationプロパティへ、座標を表わすPoint構造体の値を設定する

- ・Pointクラスのコンストラクタへ座標を指定してインスタンス化し、それをLocationプロパティへ設定する

コントロールのサイズを変更する方法

- ・従来のようにWidth、Heightプロパティで指定する
- ・SizeクラスのコンストラクタにPoint構造体を指定してインスタンスを初期化、それをコントロールのSizeプロパティへ指定する
- ・同様にSizeプロパティへの指定だが、SizeクラスのコンストラクタにSizeクラスの各値を指定してインスタンスを初期化する

これらの方法を使い、Labelコントロールの位置とサイズを設定している例がリスト1です（コンストラクタに関しては、記事末の「Check!：Newコンストラクタ」を参照）。

このサンプルでは、Form1クラスへ SetInitialize Value()というコントロールの初期値を設定するプロシージャを作成し、クラスのNewコンストラクタからコー

表1：Labelコントロールの主なプロパティ

| プロパティ | 値 | 内容 |
|------------------|------------------------|--|
| AutoSize | Boolean | 設定されたテキストをすべて表示するためにコントロールのサイズを自動調整するかどうかを示す値 |
| BackgroundImage* | Imageクラス | コントロールに表示される背景のイメージ |
| BorderStyle | BorderStyle列挙体の値 | コントロールの境界線スタイル |
| FlatStyle | FlatStyle列挙体の値 | フラットスタイルの外観を示す値 |
| Image | Imageクラス | 表示するイメージ |
| ImageAlign | ContentAlignment 列挙体の値 | 表示するイメージのコントロール内での配置 |
| ImageIndex | Integer | 表示するイメージのインデックス |
| ImageList | ImageListクラス | 表示するイメージを保持するイメージリスト |
| ImeMode* | ImeMode 列挙体の値 | サポートされているIMEモード |
| PreferredHeight* | Integer | 設定されたテキストをコントロールのフォントで適切に表示するための高さ |
| PreferredWidth* | Integer | 設定されたテキストをコントロールのフォントで適切に表示するための幅 |
| TabStop* | Boolean | [Tab] キーを押してLabelに移動できるかどうかを示す値 |
| Text | String | 表示するテキスト |
| TextAlign | ContentAlignment列挙体の値 | コントロール内のテキストの配置 |
| UseMnemonic | Boolean | テキスト内のアンパサンド文字 (&) をアクセスキーの接頭文字として解釈するかどうかを示す値 |

*プロパティ名の右側に*が付いているものは、プロパティウィンドウには表示されず、コードでのみ利用可能なプロパティです